

K.C.News

京都知福協だより



京都知的障害者福祉施設協議会

京都市中京区竹屋町通烏丸東入ル清水町375番地 府立総合社会福祉会館B1階 京都府社会福祉協議会

発行人 森 昇



政策委員会について

京都知的障害者福祉施設協議会

副会長 矢野 隆弘

れました。よろしくお願
い申し上げます。

- ◆ 政策委員会について ━━━━━━ 1
 - ◆ 第48回全国知的障害福祉
関係職員研究大会報告 ━━━━━━ 2~3
 - ◆ 知福協風船バレー大会報告 ━━━━━━ 4
 - ◆ 第34回幼児通園施設のつどい ━━━━━━ 5
 - ◆ シリーズがんばっています ━━━━━━ 6
 - ◆ シリーズこんにちは ━━━━━━ 7
 - ◆ シリーズこんなことやってます ━━━━━━ 8
 - ◆ 編集後記 ━━━━━━ 8

今年度より2年の任期で副会長と、あわせて政策委員長に指名されました。よろしくお願い申し上げます。

業計画の「厚生労働省が定める障害者支援施設等指導監査指針とその運用について、京都府監査指導担当課との定期的な意見交換の場を設けて検討し、適切な事業経営と、質の高い福祉サービスの提供を継続することができるよう取り組みを行なう」ことについて進めており

この「京都知福協だより」を読んでいただいて
いる大半の職員の皆さんにとつ、「政策委員
会」はなじみのない委員会だと思います。2年
前の改選時期に正式に位置づけられ、それまで
全国組織である日本知福協の政策委員であ
り、京都知福協の副会長であった、横手通り43
番地「庵」の樋口施設長が京都の政策委員長と
してその役を果たされてきました。そして、政
策委員は京都知福協の役員が兼ねるというも
のでした。今年度より、政策委員は、種別分科
会の座長に兼任していくこととなり、新た
に発足しました。

政策委員会は、ひとつには、現在進められてい
る障害者福祉制度改革の動きの中で、中央組
織である日本知福協が今後の制度のあり方に
ついて政府や障がい者制度改革推進会議などに

最後に、私見となりますが、制度改革の検討されている中で、新たな障害福祉制度が施行されるまでのつなぎ法案となる「障害者自立支援法改正案」が現在開かれている臨時国会で成立する予定です。(会期は12月3日までですか)らこの機関紙を読まれる頃には結果が出ているはずです。この改正案について、日本知福協は、賛成の立場で要望書を提出していましたが、障害者自立支援法訴訟の基本合意の完全実現をめざす会や障害者自立支援法訴訟全国弁護団などは反対の立場をとつていました。紙面の関係上詳しくはお伝えできませんが、障害者関係団体すべてが立場を乗り越えて賛成できる制度改革が進められるよう願うと共に、私たちも微力ではありますが精一杯努力していくかなければならぬと思っております。

出した障害者制度改革の動きが進んでおります。私にとってはどちらも動きが急すぎて、色々な方面からあふれ出でてくる資料や情報を理解するよりもなく、その波についていけない状態が続いています。このような時期に、副会長と政策委員長という重責を引き受けさせていただき、その重さをひしひしと感じているところです。

今回は、京都知福協の政策委員会の動きについてお知らせしたいと思います。

10月中旬に行われた京都府・京都市との平成23年度福祉予算に対する要望の懇談会において、予算要望とともに役員会・政策委員会を中心まとめた制度や指導監査等についての意見を提出し、懇談したところです。すぐに結果が出るというものはありませんが、今後も行政の皆さんと意見交換をする中で、現場の現状や今後の障害のある人たちの暮らしについて理解を深めていきたいと考えております。

提言するわけですが、京都知福協の意見をまとめ、近畿知福協ならびに日本知福協に提言するという役割があります。もうひとつは、地

第48回全国知的障害福祉関係職員研究大会「基調講演」報告

ききょうの杜 支援員 井上順平

第48回全国知的障害福祉関係職員研究大会が和歌山市にて開催されました。

和歌山県は、紀州徳川家の居城である和歌山城に世界遺産「熊野古道」や戦国武将「雜賀孫市」が有名です。会場に向かう商店街では鉄砲や武具の展示、雜賀孫市のキャラクター等を目にすることが多く活気ある街の姿を感じる事ができました。

会場に到着した参加者をアスナロ楽団と三川小学校生がウエルカムアトラクションとして歌や演奏で迎えていただきました。楽しそうに演奏されている姿や、とても気持ちよく歌つておられた姿が印象に残っています。

大会1日目の行程は、開会式・表彰式・行政説明基調講演Ⅰとなりました。

行政説明においては障害福祉施策の最近の動向として障害者自立支援法の撤廃、サービスの利用者負担について応能負担を基本とする障がい者総合福祉法(仮称)への移行について、厚生労働省障害保健福祉部障害福祉課課長の土生栄二氏より説明がありました。

基調講演Ⅰ 「社会福祉法人旭川荘 名誉理事長江草安彦氏」
江草氏は医師として障害児の診察を行うも不治の病として医学の限界を感じ、薬の処方や手術など科学技術の提供だけでなく、カウンセリングなどでその人を支えることがで

きるのではないかと思い、総合医療福祉施設旭川荘を創設される。江草氏の講演内容で

人生というものは一度きりであり、どのように生き、どのように去つて行くか。その全てが人生という道のりにある。今日という日は人生の一日であり、今日という日が連続して繰り返す積み重ねである。今日が良い日であり、明日も良い日であること。相手に生きることに満足していると思つていただく為には支援を行なう人も健康で良い日を過ごすことが大切である」と話をされていましたが印象深く残っています。

基調講演Ⅱ 「NPO法人日本ソーシャルワーカー協会会長 国際医療福祉大学 大学院特任教授 鈴木五郎氏」

家族内殺人児童虐待いじめ・引きこもり。うつ病の増加・自殺増加等現代の精神文化荒廃を乗り越える為に生活の原点となる家族形成を基本とする福祉の形成を再度検討すべきである。そこから地域福祉の実現とその人らしさを支える福祉のあり方を今後求めています。ネットワークの構築とは、生活の時間(その人らしい生活習慣)と空間(住まい、働く場、余暇)、関係者の責任を役割分担していくことによつて、足りないサービスを補つていくことです。

障害のある人の暮らし方つて誰が決めるのでしょうか。今まで、本人の意向というよりは、関係者が決めてきました。家族の思いは、「安心感が欲しい」ということです。「親が責任を持つて面倒を見なければならないが、私は、関係者が決めてきました。家族の思いは、それをあてはめていく、それだけで要望は叶うの役割とは何か。周辺の社会福祉施設との連携を強め、専門性や質の高い、その人につぶたサービス提供を行い、障害を持った方も家族も地域の住民も満足のできる支援、共生が求められるのではないかと考えます。

第48回全国知的障害福祉関係職員研究大会「第1分会場」報告

あしたーる風和里 副管理者 今井詩乃

第1分会場は、障害のある人たちが、地域であたりまえの暮らしを築いていくために必要なネットワークについて、入所施設から移行

地域全体の課題共有をすすめる自立支援協議会の役割等を論点に「地域生活を支えるネットワークづくり」というテーマで行われました。

自立支援協議会は、障害のある人の生活を考える機関です。役割としては、①ニーズ、サービス・あつたらいなと思うサービス・情報の共用化・情報の集約等②サービスを使うこと③ニーズにあつたサービスを作つたり、今あるサービスを使いやしくリメイクすることです。入所施設から地域へという現代の福祉の中で「相談機関」と「ネットワークの構築」は強く要請されています。ネットワークの構築

とは、生活の時間(その人らしい生活習慣)と空間(住まい、働く場、余暇)、関係者の責任を役割分担していくことによつて、足りないサービスを補つていくことです。

障害のある人の暮らし方つて誰が決めるのでしょうか。今まで、本人の意向というよりは、関係者が決めてきました。家族の思いは、「安心感が欲しい」ということです。「親が責

任を持つて面倒を見なければならぬが、私は、関係者が決めてきました。家族の思いは、「安心感が欲しい」ということです。「親が責

宅・病院グループホーム・アパート等、24時間安心安全の暮らしを支援する仕組みづくりが求められています。措置から契約へと変わ

たことで、選ぶことはできるようになりますが、誰が何を主体に選んでいくか?情報(サービス)を知らないと選ぶこともできません

んし、利用者が望む生活を100%叶えるためには、1つの施設だけでは支えきれないのが現状です。では、利用者が望む生活を100%叶えるなんることは実際可能なのでしょうか。統計を見てみると、比較的障害程度区分の低い人(自立されている方)は地域

生活をしている人が多いが、区分の高い人はそれを他のサービスを利用することで叶えられるのではないかつまり、ネットワークの構築が重要な課題であると思います。

この研修を通して、「一人の人の地域生活を支えていくために、ケア会議や地域との連携をすることは大切であり、連携なしでは支援を続けることは難しいのではないかと思いま

した。また、利用者の要望に応えるために支援者がどう動いていくか。サービスに利用者は、いかなければと改めて感じました。

平成22年度 知福協風船バレー大会報告

実行委員長：城 永 浩 児（障害者支援施設みずなぎ学園）



試合
風景



アタック



表彰式の
様子



お知らせ

10月27日に開催が予定されていたキックベースボール大会はグラウンドコンディション不良の為に中止となりました。尚、大会準備につきましてご協力頂きました関係者の方々にこの場を御借りしまして感謝申し上げます。

実行委員長：南 孝司（社会福祉法人みずなぎ鹿原学園）

9月17日（金）京都府亀岡市にある亀岡市民体育館にて知福協風船バレー大会が開催されました。9月に入つても、暑い日が続き大変でした。当日も暑い中で試合を行わなければと、心配していましたが、それ程の事もなく大会を開催することができました。今年度は、例年になく多くの施設の皆様に参加して頂き、盛大に行うことができました。

さて、大会の模様ですが、全22チームが4ブロックに分かれ予選をし、各ブロックの1位が決勝トーナメントに進み勝敗を競い合いました。どのブロックも見ていて白熱した試合をしておられました。さまざまな障害を持たれた利用者さんに、参加していただきありがとうございました。

決勝トーナメントに入りますと、各ブロックを勝ち抜かれた4チームともレベルが高く、試合の雰囲気も予選とはちがいラリーがあつた。り、ブロックがあつたり、又得点を入れた時、入られた時みんなで喜んだり、悔しがられたり真剣な様子がうかがえました。

今回、参加賞で風船バレー用の風船を持つて帰つて頂きました。来年の大会に向けて日

かけられている姿には、感心させられました。頃から練習をしてもらい、今年以上の成績を又初めて風船バレーをされる施設もありました。最後に実行委員の皆様には朝早くから、準備・運営等お世話になりました。事故なく無事に大会終了できました事ありがとうございました。

●試合結果●

優勝 るりけい寮Aチーム

準優勝 みずなぎ高野学園

3位 八木寮

4位 みずなぎ鹿原学園

第34回 幼児通園施設のつどい

実行委員長：横藤田直子（ひなどり学園）

「音楽工房 壱の音屋」さんによる歌と演奏

開会式では各園の子どもたちに園長先生から「お名前呼び」の時間があり、順番に呼び掛けられると声を出したり手を挙げたり表情で表したりして、どの子もそれぞれに自由な表現で応えていました。開会式の後には、これから始まる遊びのプログラムに向けての準備体操が行われました。体操の動きと流れが視覚的にとらえやすいようにという意味も含めました。アンパンマンに扮した職員がモデリングとして登場すると喜ぶ子どもも多く、注目を集めていました。テレビでも放送されている子どもたちに馴染みのある親しみやすい曲に合わせてアンパンマンが大きな動きで踊りだすと、「ぼくもわたしも！」と元気いっぱい体操して保護者にもいきいきとした姿を見せ、楽しんでいる印象を受けました。

「ミニ遊園地」どのコーナーも人気で子どもたちの興味を惹いていました。午前中を締めくくる毎年人気のパラバルーンも事前ブレ演技の段階から注目を集め、実際にリズム感ある明るい曲に合わせて頭上できのこやお山、メリーゴーランドなどのかたちに変化していくと子どもたちは目を輝かせて眺め巴拉バルーンに手を伸ばして楽しむ気持ちを体いっぱい表現して、次にやつてくる巴拉バルーンの期待に胸をふくらませ笑顔で待つ姿が印象的でした。

り、馴染みある曲が始まると子どもたちは保護者と手拍子やポンポンを振り楽しんでくれました。演奏曲も静と動さまざまなジャンルのものの演奏で、音楽の楽しさや喜びをたくさん伝えて下さいました。この日の素敵な演奏会を用意してくださった楽団の皆さんに心から感謝しています。

演奏が終わり、閉会式となりました。一日のプログラムを楽しみ疲れた様子の子どももいましたが、総勢約150組の親子、職員が無事に楽しく過ごしてもらえたこと、そして、こうして年に一度このつどいを通して交流の場を持つことの大切さを深く感じ、多くのことを学びました。運営、開催にあたりお手伝い下さった行事部会の方々、体育館の方々のご協力、そして共に会の内容を考え支えて下さった各園実行委員、職員の方々へ心より感謝しています。今後も子どもたちのより良い療育と交流のために、この行事が続していくことを切に願っています。

て年に一度このつどいを通して交流の場を持つことの大切さを深く感じ、多くのことを学びました。運営、開催にあたりお手伝い下さった行事部会の方々、体育館の方々のご協力、そして、共に会の内容を考え支えて下さった各園実行委員、職員の方々へ心より感謝しています。今後も子どもたちのより良い療育と交流のために、この行事が続いていくことを切に願っています。

最後になりましたが、京都府、京都市からもご臨席を頂き、心よりお礼申し上げます。

9月29日、京都府立体育館に於いて、第34回 幼児通園施設のつどいが開催されました。当日 は秋晴れの好天にも恵まれ、京都市内にある 単独通園施設4カ園(空の鳥幼稚園、むくの木 学園、洛西愛育園、ひなどり学園)の子どもた ち、保護者、職員が集まりました。そして昨年 度に統いて今年度も、親子通園施設へ開催のご 案内をして参加を募り、今年はこぐま園から

「他園との交流」を全体の大好きなテーマに、3歳から6歳の子どもたちが単独通園施設、親子通園施設の枠を越えて、みんなで一日楽しく遊び過ごすことの大切さを念頭に置き、実行委員会で各プログラム内容を立案し検討を重ね、企画を具体的なものにしてすすめていきました。



▲パラバルーン



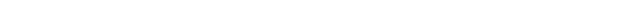
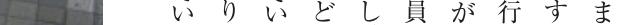
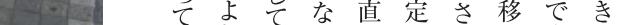
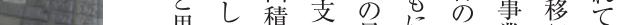
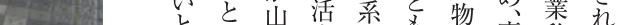
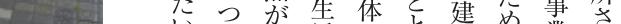
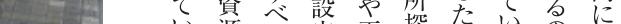
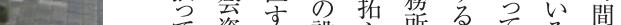
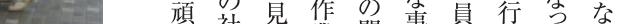
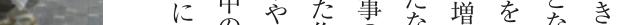
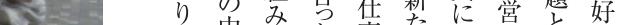
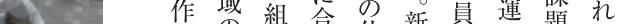
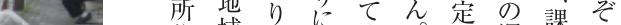
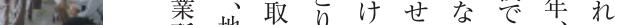
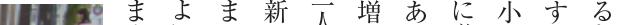
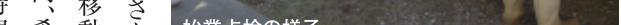
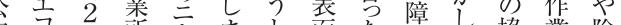
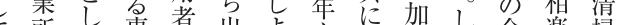
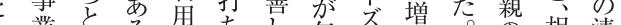
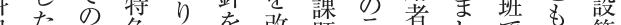
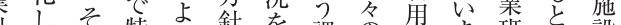
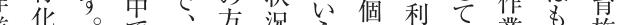
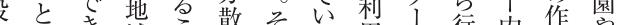
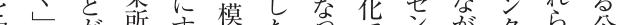
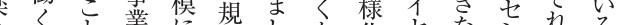
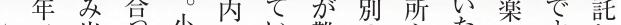
お遊びタイム～マットのお山～

「リーズがんばっています」
相楽福祉会 エコ・クリーン相楽
所長：旅 敦史

前から利用者の皆さん
が自主通所されてきます。



▲今年の旅行は軽井沢でした



シリーズこんにちは 広報部員施設訪問記

訪問者：佐久間 幸子
(花ノ木医療福祉センター)



◀エントランス



▲居住棟

きょうの杜にお邪魔いたしました。京都方面から車を走らせ、大きな工場などが立ち並ぶ国道9号線から少し入った、静かな新興住宅地の中にありました。障害者自立支援法に基づいた施設として、本法が施行された年である平成19年8月に多機能型施設として開設、現在は8事業を展開されています。

お邪魔いたしましたこの日、支援主任である小中さんに施設内を案内していただきました。敷地内には居住棟と管理棟・日中活動棟というふうに、居住の場と日中活動の場とがエリア分けされており、障害者自立支援法が施行され

次に、日中活動棟を案内していただきました。丁度入浴の順番を待つておられる利用者の方がたくさん廊下で待機されていました。食堂に案内していただいた時には、所狭しと、たくさんの利用者の方が思いおもいに過ごされていました。壁には利用者の方の活動作品などが展示されていました。「ここにちは！」と元気な挨拶をして下さる利用者の方や、案内して下さっている小中さんに、近況を報告されていました。

た當時謳われていた、生活の場と日中活動の場の分離というところでは、理想的な造りをされていることに、軽く衝撃を受けました。衝撃とましく感じたことは正直なところです。一施設の敷地内ではありますが、木のぬくもりを感じる木造の居住棟が立ち並ぶエリアは、一見閑静な住宅街を思わせるような印象を受けました。丁度お昼過ぎで陽の光が屋根や木の柱に跳ね返り、素敵な住宅街が更にきらきらと輝いて見えました。入居されている建物の中も拝見させていただきましたが、「ひとつつの『家』」として機能できる環境が整備されており、もはや「施設」という感覚はありませんでした。家庭的な雰囲気を感じ取り、入居されている利用者が方々が、どこまでどんなふうに自立されていているのかは、想像はつきかねますが、建物を拝見する限りでは、その人らしい生活、人生を歩まれる上では、その手立てとなるサービス

The image shows a variety of Japanese confectionery products displayed in wooden boxes. In the foreground, there is a box containing several types of cookies, some with white chocolate and others with brown sugar or chocolate. Next to it is a box of fruit tarts with different fillings like peach and custard. Behind these are more boxes containing wrapped candies and what appears to be dried fruit or nuts. The packaging is colorful and often includes small labels with Japanese text.

クッキー製品

いる方もおられました。多機能型施設として、日
介護の他に自立訓練や就労移行支援、就労
作業場では、実際に訓練としての活動をされて
しゃついた部屋にも、多くの利用者の方が集
まつておられ、作業製品の紹介などを利用者の
方が一生懸命説明して下さいました。長年手慣
れた作業をしてこられた利用者の方は、纖細で、
かなりの技術を要する作業をしてこられたよ
うである意味職人さんのような顔つきで説明
して下さったのが印象的でした。しかし、継続
的に仕事があるわけでもないようで、どこかも
どかしい思いをされているように感じました。
お菓子の製造をされている調理場にお邪魔
取り組んでおられるところでした。就労支援の
一環として、近くのスーパーに卸しているとのこ
とでした。

ききょうの杜は、多機能型施設として利用
を後にしました。

行できることを念頭において支援をされています。施設入所支援として在籍されている方が利
用されています。多機能型ということで、生活
の充実、生活能力の維持、向上のための訓練
就労へつなげていくための訓練、地域で自立し
て就労するための訓練など、様々なニーズを
持つておられる方が、自分らしく生きていくた
めに、また、意味のある人生を模索していくた
めにこのききょうの杜で活動されているのだと
あ、と感じました。高齢化、重度化への対応が
今後の大きな課題であるとおっしゃっていました
たが、年齢、障害の重さにかかわらず、やはりそ
の“人”がいつまでもその人らしく人生を歩ん
でいけるような支援が大切なことであると同
時に、簡単に実現できるものでもないこと、その
お話をさせていただき、他施設の職員の方と貴重な
お話をさせていただいたことで、また一步前に進
む機会をいただいたように感じ、ききょうの杜



シリーズ
こんなことやってます
第4回地域福祉ネットワーク交流事業
Heart & Hand☆EXPO2010を終えて

飛鳥井ワークセンター 支援員 西 村 好 平

としたもので、京都市をはじめ京都市社会福祉協議会や京都市左京区社会福祉協議会の後援をいたぐとともに、今回は京都新聞社会福祉事業団の協賛・助成も得ることができました。

多くの来場者で賑わう会場

る方が協働制作した作品展示、④学校や社会福祉協議会の活動紹介などを行いましたが、一般市民が気軽に立ち寄る会場で事業所の利用者ご本人が販売を担当し来場者と交流を深めるなど、地域住民に障害福祉や地域福祉をより身近に感じていただく機会になつたと 思います。

ところで、この事業は、障害のある方々の社会参加を促進するため、福祉施設と地域との架け橋になれるようなイベントを!という職員たちの自発的な思いから開始され、2回目

ターから委託された府内施設の製品販売、②地域にある福祉事業所（児童、知的、精神、身体障害の各事業所）の協力を得て制作した事業所紹介パネルの展示とパンフレットの配布、③地域にある芸術系大学の学生と障害のある方が協働制作した作品展示、④学校や社会

会が企画段階から事業を担い、地域にある保育園、小学校、高齢者施設、障害者施設一般企業、地域団体等、多くの皆さんとの協力を得て実施してきましたが、それまで交流がなかつた施設や団体とのつながりを作り、あるいはこれまでの関係をより強固にして、機会として

そして、第4回を終えた今、障害のある人とない人の垣根が少しでも低くなっていくことを願うとともに、この事業にご支援とご協力をいただきました京都知福協加盟施設の皆様に心より御礼申し上げます。

そんな「デラックススタイル」の様子を眺めながら仕事での場面を思い出しました。

最近のサービスエリアのトイレは実に色々です。様々な機能が備え付けられており、便利ではありますが、外出時に利用者の方のトイレに付き添つていると、トイレを流すレバーの在りかが分からずにつき場で立ち尽くしてしまわれたり、違う用途のボタンを押してしまわれ便器から水が噴き出したり、緊急用のアラームが鳴つたりと、便利さが利用者の方には不便になってしまることがあります。

誰もが使いやすい本当の意味でのデラックスなトイレを造るのは難しいなど思いながら、デラックストイレを後に、片道7時間の旅に再び出かけました。

高速道路の一部無料化・割引を利用し
て、先日、関東地方に旅行に行きました。
片道7時間という長旅を有意義に過
ごすため、事前にサービスエリアのご当地
物や流行のスポットなどの情報を集め、
胸を躍らせながら車を走らせました。

編集後記

千名程の一般市民や関係者の方々にご来場いただき、盛会裏に終了しました。



大きな声と笑顔で接客



数々の商品を手にとられる来場者